

4 雑木林植物にはどんなものがあるか

(1) いろいろな管理段階で違う樹木

現在の雑木林を構成する樹木は3つの特性をもつグループが混じっています。

イヌシデ、ミズキ、アカメガシワは伐採して明るくなった場所に生え、いち早く侵入し伸びていきます。現在ではその勢いはなく、枯れたり少なくなっています。

コナラ、クヌギは典型的な雑木林の構成種で切り株から再生します。今では元気がありますが、一部では競争の結果衰退して枯れているものもみられます。これから先もまだ成長を続けるでしょう。

シロダモ、タブノキ、ヤブニッケイはあまり管理をしない林に侵入し、徐々に大きくなってきています。将来はこうした常緑樹が優占する場所が増えてくると思われます。

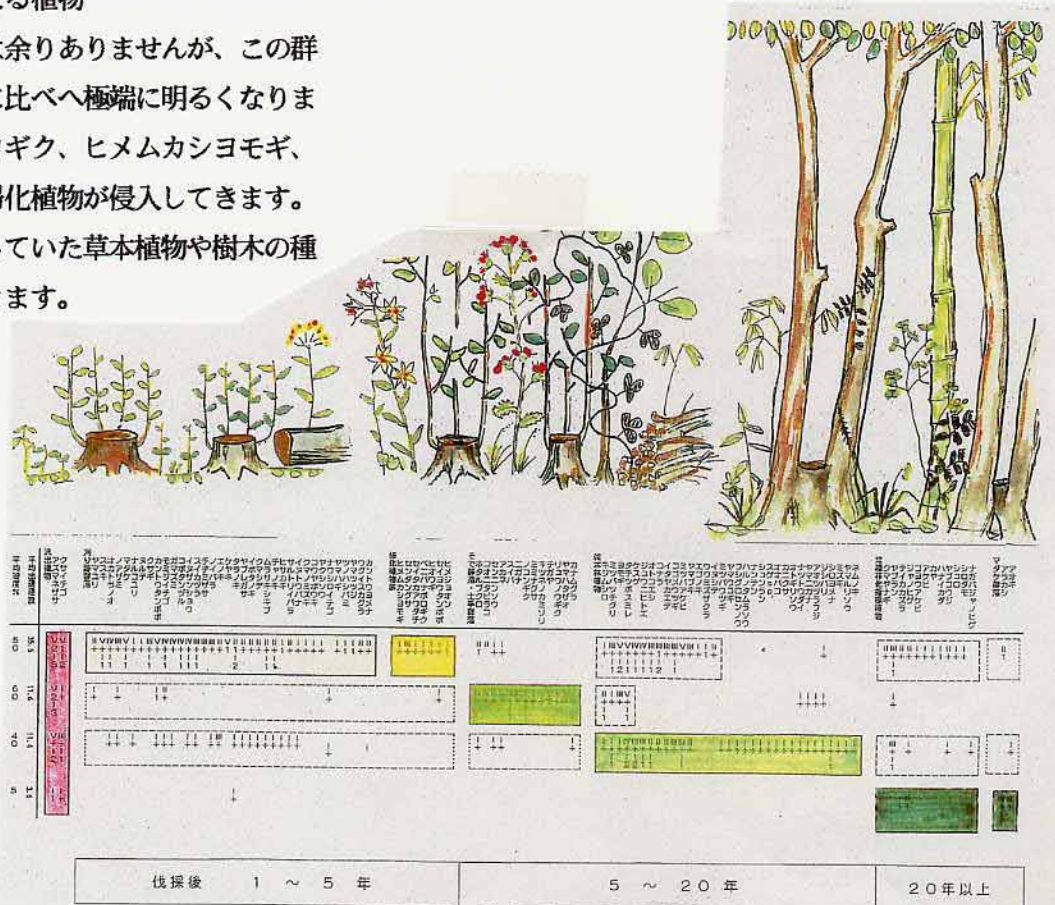


伐採跡地に帰化植物が生える

(2) 伐採跡地に生える植物

伐採跡地は現在では余りありませんが、この群落は特異です。森林に比べへ極端に明るくなりますから、ベニバナボロギク、ヒメムカシヨモギ、ヒメジオンといった帰化植物が侵入してきます。同時に土中には待機していた草本植物や樹木の種子が一斉に発芽してきます。

伐採されたコナラやクヌギも萌芽して成長を始めます。



雑木林の変化と種組成の変化